

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本プログラムでは、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団の育成を目指し、これまでに以下の取組を実施した。

1. RJE3プログラムの実施体制の確立

- **「RJE3コンソーシアム」の設立**：本学と極東ロシアの5協定校の代表により「RJE3コンソーシアム要項」を定め、国際運営委員会を開催し、「RJE3コンソーシアム」を設立した（H26.12）。
- **日露大学間連携体制**：本学国際本部に「セントラル・オフィス」（H26.12）と極東ロシアの5協定校すべてに「リエゾン・デスク」（H27.1）を設置した。本プログラム運営業務全般を取り仕切る体制を構築し、日露間の連携を強化した。
- **産業界・自治体などとの連携**：日露の教員、産業界・自治体・研究機関等の関係者がその機能に応じて参加する、「国際運営委員会」（H26.12, H27.8）、「FD実行委員会」（H27.3, H28.2）、「教育交流研究会」（H28.1）、「持続的発展研究会」（H28.2）、「外部評価委員会」（H28.6）の5つを設置した。
- **学内支援体制**：学内に本学の意思決定組織として、国際本部と5大学院・2研究センターで組織する「学内運営委員会」を設置した（H26.12）。またプログラム運営の業務を検討する「セントラル・オフィス会議」（H27.1）、教育カリキュラムを検討する「カリキュラムWG」（H27.4）を設置した。

2. 目指す人材を育成するための教育カリキュラム

- 学生の能力に合わせた4段階の教育カリキュラムのうち、「準備科目」「基礎科目」「専門科目」を開講し（H27.3～）、「発展科目」（H27.10）を平成28年度開講できるよう準備した。また、本プログラム独自の科目として、本学の学部・大学院に科目を正規登録し（H26.10, H27.10）、単位取得できるようにした。
- ロシア側のニーズを最大限考慮した本学教員派遣によるロシア側大学開講の講義と、長期留学へのモチベーション向上を目的とした大学院進学希望学生対象の短期派遣で構成される「準備科目」を開講した。
- 「概論」と「実習」で構成される「基礎科目」を英語により開講した。「概論」は日露の学術的視点を取り込んだ分野横断的な共同講義であり、「実習」は専門性の高い国内外のフィールド実習である。日露の学生・教員は、活発なディスカッションを通じて、極東・北極圏の取り組むべき重要課題を共有した。

3. 厳格な成績管理と学修プロセス

- 「基礎科目」共同評価体制の構築（H27.8）、2種類の「共同修了証」の厳格な授与基準の設定（H27.8）、ロシア側大学における単位互換情報の収集（H27.5～）により、「RJE3単位成績換算表」の作成を開始した。
- 5領域の専門的知識と4つの力が習得したかを総合的に確認するため、「RJE3単位成績換算表」に基づき、日露の受講学生の評価を管理するデータベースを構築し、学生個人の達成度を確認できるシステムをつくりあげた（H27.3～）。
- 冊子・電子媒体による「履修ガイド」を作成した（H28.3）。学生の能力やニーズに合わせて、「基礎科目修了証」授与コースと「RJE3共同修了証」授与コースの2つの履修コースとして整備し、学修プロセスの明確化を図った。

今後の展開としては、これまで重点的に開発してきた「準備科目」「基礎科目」の次のステップに当たる「専門科目」「発展科目」の整備に力を入れ、4段階の教育カリキュラムのスムーズな受講と更なる発展を目指す。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成26年度				平成27年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
10人	5人	25人	35人	25人	27人	25人	25人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。